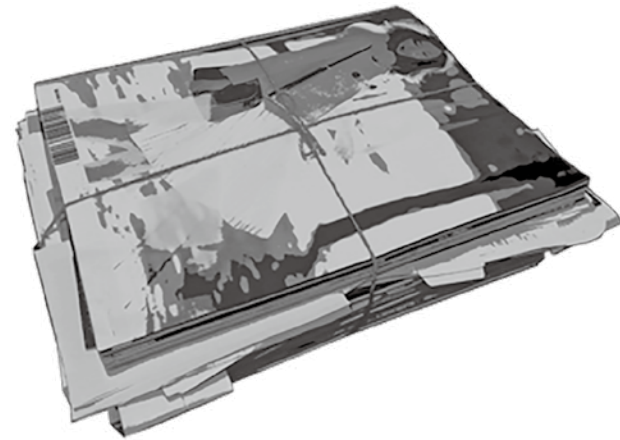


05 その他紙はどのように出せばいいの？ 【可燃ごみ】ではなく、【雑誌・紙パック・その他紙】で出してください

①その他紙を束ねてひもでしばる

②雑誌の間に挟んでひもでしばる



③紙袋に入れてひもでしばり「その他紙」と書いて出す



POINT

- テープなどでとめる場合は中身が見えるようにしましょう
- 紙袋の持ち手が紙以外の場合は取り除きましょう

かすみがうら市では、家庭系のごみ減量に向けて以下のような取り組みも進めています

- ① プラスチック容器の分別推進
- ② 新聞・雑誌などの分別推進
- ③ 食品廃棄物の削減
- ④ 生ごみ水切りの推進
- ⑤ 生ごみ処理容器等設置補助事業の推進
- ⑥ 資源ごみの集団回収の推進
- ⑦ 可燃ごみ専用指定袋の検討

7月から 今年7月から全国一律でプラスチック製レジ袋の有料化がスタート

プラスチックは、あらゆる分野で私たちの生活に役立っています。一方で、海洋プラスチックごみ問題、地球温暖化などの課題もあることから、私たちはプラスチックの過剰な使用を抑制し、賢く利用していく必要があります。

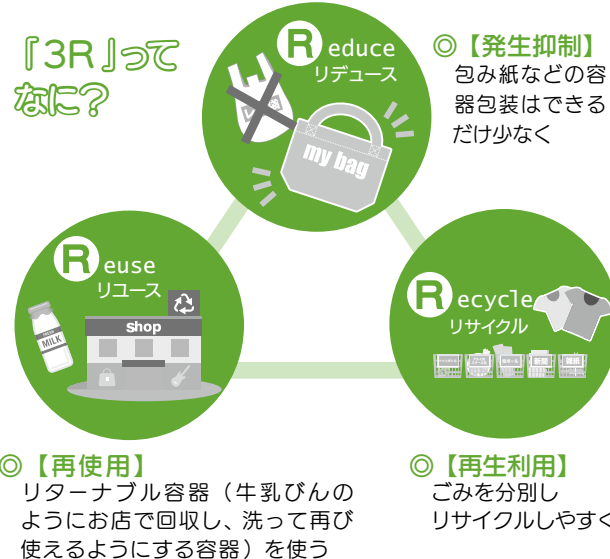
このような状況から、令和2年7月1日より、全国でプラスチック製レジ袋の有料化が始まります。普段何気なくもらっているレジ袋が本当に必要かを考え、ライフスタイルを見直すきっかけとすることを目的としています。

皆さんも買い物のときには、お気に入りのマイバッグなどを持参して楽しみながらレジ袋削減に心掛けましょう。

循環型社会で地球にもお財布にもやさしく

今までごみとして捨ててしまっていたものを、これからは大切な資源として繰り返し使っていくことが大切です。つまり「使い捨て型」から「循環型」に変える必要があります。ごみによる環境などへの影響が少なく、資源をずっと長く使い続けることができる循環型の社会をつくるため「3R」活動を広げていきましょう。

「3R」ってなに？



私たちの生活は、【たくさんの物を作って、使って、捨てる生活】を送っています。これが原因でごみはどんどん増えてしまっています。では、このごみを増やさないよう、そして減らすために、私たちはどのようなことに取り組みればよいのでしょうか。

「ごみ＝捨てる」の行動の前に、一度立ち止まってごみ問題を考えてみましょう。

ごみの量が増えるとうなるの？

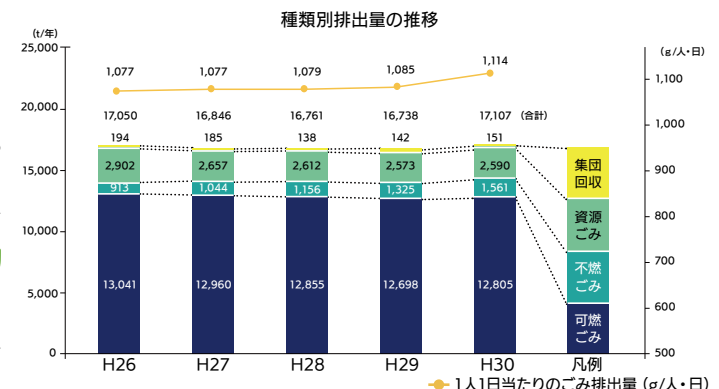
集められた大量のごみは手間と時間をかけ、またエネルギーをたくさん使って処理されます。ごみの処理は自然環境にも大きな影響を与えます。

01 ごみの排出量を知ろう

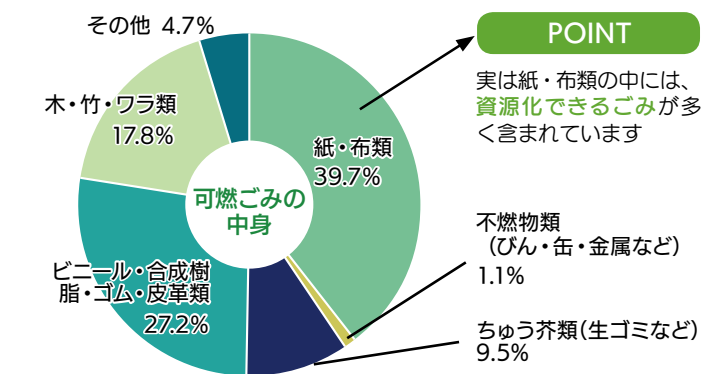
普段何気なく捨てているごみ。市内において年間でどれくらいの量が捨てられているか知っていますか？

→平成30年では、年間約17,107トン※ものごみが排出されました。なかでも、可燃ごみの割合は、約75%を占め、約12,805トンものごみが焼却処分されたことになります。

※1人当たりによると1日約1.1kgものごみが捨てられていることになります。



02 家庭系可燃ごみの中身を見てみよう



POINT

実は紙・布類の中には、資源化できるごみが多く含まれています

03 資源化って必要なの？

ごみはもともと水や森林、石油、鉱石などの多くの資源を利用して作られたものです。

しかし、資源には限りがあることから、資源を有効に使い、環境への負荷を少なくするためには、新たなリサイクル製品を作るなどの資源化は必要なのです。



04 資源化できる紙類を分別してみよう

資源になる紙 (その他紙)



資源にならない紙 (可燃ごみへ)

